校友時報

昭和37年7月16日
編集人兼発行所
秋田県立雄勝高等学校教育部
印刷所　大曲家印刷所

紙面紹介

一面　独立図書館建設問題、論説、総体結果、能高祭
二面　ラオス三河島、遠学、記者談話
三面　インターハイ、総体
四面　座談会、映画紹介、能高祭、編集校記

「独立図書館建設」県会通過を待つのみ

本校創年の念願であった独立図書館建築の準備がちゃくちゃくと進められている。昨年のPTA総会で独立図書館建築案が決りとなり、同時に独立図書館建築委員会が組織された。独立図書館建築委員会はすぐに県、その他の機関への陳情に乗り出した。その結果同年十月には県教育委員会で設立を決定して、今年二月県会での可決を要請したが、財源が乏しいという理由で見送られた。しかし、今年九月県会での通過が見込まれている。独立図書館建築案が九月県会を通過した場合、学校側としては今年度内にも完成しようという意気込んでいる。また地元負担金の問題など幾つかの問題が残されているが学校側としては、予算総額四百五十万円、その内県が三百万、PTA七十五万関係七町村が七十五万円となっている。場所は校門からはいった左手の庭。現在の図書館のすぐ北に鉄筋コンクリート二階建で収容人員百名、総坪数九十坪で鳳鳴に次ぐ、県下第二の大図書館を年度内に完成したい意向である。総坪数九十坪の内、二階二十坪は暗室をとり揃え、視聴覚教室と大いに授業に役立てる方針である。一階六十坪は新しい図書館にふさわしい設備としてこれを機に蔵書も大幅にふやす予定である。また図書館には郷土もつけたい意向である。現在の図書館の四十五坪、蔵書七千百冊、椅子数九十二に比べ相当よい図書館となるようだ。以上のようなことが学校の計画として決っているだけで使所は附属するのか、屋根は何で次々のか、建物の色はなど具体的なことはまだ決っていないが、いずれにしろ九月県会通過が見込まれているだけに生徒諸君も新しい図書館にふさわしい価値ある利用法を身につけてもらいたいものである。

なお、新図書館設立にかんする図書部では、次のように語っている。「図書館建設」の問題が順調に進展していくことを望んでおり、今後のあり方として、全校生徒のいこいの場所となって、自然にみんなが集まってくるような図書館にしたい。更に本校文化活動のセンターとして、独立図書館を建設して非常に良かったと云われるように努力しようと思っています。

【写真説明】
上の写真は、本校の現図書室を利用して予習、復習にはげむ本校生徒との図書館での姿。

論説

小さな反抗

六月下旬の新聞紙上を「苫子牧と札幌の高校生五十余人が集団決斗」という記事がにぎわした。ことがあった。なんでも一度決斗した時は苫子牧側が勝ち、札幌側がその復讐戦を申し込んで二度目の決斗としようとしていたのを保護されたらしいが、全く馬鹿なことだ。原因は列車内での些細なつまらぬ事のようだが、それにしてもどうして彼らはこんな大それた事件を引き起したのか思うに、彼らは彼らを取りまく様々な環境、感化されどんな些細な事にも爆発しやすい状態になっていたのではなかろうか。ここで考えたいのは様々な環境の中の、いわゆる〈灰色の高校生活〉のことだ。これがこれらの高校生に与えた影響はまんとにわずかかも知れないが、この事件の精神面的な、陰に隠れた原因を探ぐる時、その影響が「無い」とは云えないように思う。つまり彼らには〝灰色の高校生活〟に押しつぶされたとみられる面はいくらかはあると考えるのである。更にこの事だけを取り上げると、彼らは押しつぶされながらも〈小さな反抗〉をくわだてたと云えないこともない。もちろん彼らはそれを意識していたわけではないだろうが……。

ここで〝灰色の高校生活〟に対する〈小さな反抗〉のことをじっくり見つめてみよう。

人々は高校生活を〝灰色〟だと云い、我々高校生も〝灰色の青春の中に生きている〟と一途に思いこんで日々を送っている。重く、厚くおおいかぶさっている〝灰色のあるもの〟に嘲き苦しんで、ただ黙々と〝声なき声〟を地へ行くような生活をしている。が、はたしてこれでよいのであろうか。これで良いはずがないのだ。未来を期待して、もっと大それた夢や希望を抱けるような高校生活を築かねば「――誰しもそう思うであろう。がデッカイ希望を抱けるような高校生活がそんなに簡単にできるのか――現在の社会組織がひっくり返るような大事件でも起こらない変りできない相談である。しかし、ここで提案したい。もっと現状に対し〈小さな反抗〉をしようと。もちろん、暴力なんかでなくて、文化祭やクラブ活動、スポーツ等自主的活動においてである。現在の高校生には〈小さな反抗〉をしている者が余りに少なすぎる。未来に対して今より少しでも多くの希望を抱けるように〝灰色の青春〟に向って〈小さな反抗〉をしよう。そのことによっていくらかでも明るくなろうと思うのである。

総体

バレー、柔道が優勝す

第八回全県高校総合体育大会は、二十一日（金）から二十四日（日）の三日間にわたって秋田市の二十三会場で二十二種目に五十二校選手四千七百名余り参加しおこなわれた。二十二日の開会式は秋田市八橋競技場でおこなわれた。

このあと秋田市内女高生の華かなフォークダンス、高体巡劍道部会員の勇壮な野試合などが華かに行なわれた。本校はバレー、柔道、剣道、卓球、籠球、庭球、体操の七種目に六十名余り選手が出場、バレー、柔道の優勝と、主力選手を送り出し、二年、一年を中心に戦った体操部の準優勝をはじめ、各種目に優秀な成績を収めた。

初優勝の柔道は、一回戦、二回戦と順調にこまをすすめ、準決勝秋田商を3――で破り、決勝に進出した。決勝は予想どおり優勝候補の秋田高と対戦、大山、佐藤の二選手が勝ち結局2――1で破って念願の初優勝を堂々と勝ち取った。個人戦では、六十八キロ以上の佐藤選手と対戦、判定でやぶり優勝した。

バレーは、県北大会で優勝しおり、有力な優勝候補に上げられていた。準々決勝、準決勝ぜんぜんストレートで勝ち、決勝は優勝候補の大館鳳鳴に2――1でかろう勝ってここに通算五度目の優勝をなしとげた。体操は秋工に敗れ、八連勝の夢はかなえられなかった。他の各部はともに惜敗だっただけに来年の優勝をめざして練習に励んでいる。

ことば

順問　高橋彰三郎

一票のつもりで投じたが、事前の予想通り電子計算機なんの確実な結果があらわれたのだからいま百票という単位では評論票も相違いなのかと、実のところがっかりした。とにかく全国区となると、覚より人と云ったところで最ちょっとみのあるのは藤原のきさんである。点で他とう変りはない。そこで各家庭に配られた立候補者公報を手がかりとするわけだが、拡げておやっと思ったのは、ペン書き百三人中三六人もあって、しかもその中におまりに誤りが多かったことである。わずかな紙面に相も変らず、「お願いします」があるのは事もちならないが、お互い「ことば」を大切にしようと言いたかったのである。

九月一日の参議院選挙、全国区では浮動票（撤廃）「人口過密」（無密）等無視し言い放ったとの評論家たちの予想通り電子計算機なんの確実な結果があらわれたのだからいま百票という単位では評論票も相違いなのかと、実のところがっかりした。とにかく全国区となると、覚より人と云ったところで最ちょっとみのあるのは藤原のきさんである。点で他とう変りはない。そこで各家庭に配られた立候補者公報を手がかりとするわけだが、拡げておやっと思ったのは、ペン書き百三人中三六人もあって、しかもその中におまりに誤りが多かったことである。わずかな紙面に相も変らず、「お願いします」があるのは事もちならないが、お互い「ことば」を大切にしようと言いたかったのである。

「候補者」（候補）「撤廃」（撤廃）「人口過密」（無密）等無視し言い放ったとの評論家たちの予想通り電子計算機なんの確実な結果があらわれたのだからいま百票という単位では評論票も相違いなのかと、実のところがっかりした。とにかく全国区となると、覚より人と云ったところで最ちょっとみのあるのは藤原のきさんである。点で他とう変りはない。そこで各家庭に配られた立候補者公報を手がかりとするわけだが、拡げておやっと思ったのは、ペン書き百三人中三六人もあって、しかもその中におまりに誤りが多かったことである。わずかな紙面に相も変らず、「お願いします」があるのは事もちならないが、お互い「ことば」を大切にしようと言いたかったのである。

これからの国政を背負っていこうという人達であるのに心の派再であるのことばがいかに無造作に扱われているかを眼の当り見て、当選者にそれ程ひどい人がいなかったのがせめてもの救いであったと思うのである。「政治は愛情である」と言っても、これでは心のきめの細かさが疑われよう。

むべなるかなである。

能高祭のプラン決る

第三回能高祭が行なわれるにつき能高祭実行委員会ではいろいろ審議し決定した内容は次のようなことである。

期日は九月二十二、二十三日の二日間にわたって行なわれる。

展示会は各ブロックで自由に行なっていたルームデコレーションがとやめになり、科学部絵画部書道部、図書部新聞部、文芸部、弁論部のそれぞれの展示を行ないクラブ活動のあうまずしを紹介するほか運動部の業績である優勝旗、カップ、メダルなども展示する。また神の秋田高と対戦、大山、佐藤の二選手が勝ち結局2――1で破って念願の初優勝を堂々と勝ち取った。個人戦では、六十八キロ以上の佐藤選手と対戦、判定でやぶり優勝した。

写真同好会、J・R・C部便友会などの展示も行なう。催しものでは、文化人を招き講演会を行なうほか、演劇部員による劇、市内五高による音楽部の出演とグラス対抗を行なう音楽会、校内弁論大会、ステレオコンサートなど、各種盛大に行なうその他、喫茶部と食堂を設ける。

前夜祭はファイアーストームを囲んで歌う。予定されていたフォークダンスはとりやめになった。

また、仮装市内行進も中止となった。特別目新しいものはないが、高校生らしい新鮮さ明るさをもって能高祭を行なおう。

スポーツライト

▼一年某組のある日のでき事。N君が大学生の兄貴から聞いたいってとんでもないことを話していた。N君曰く「ダンプが学校ヘドカンそしてなんとそれに乗っていたのが参院選の候補者」これを聞いて教室中が大騒ぎ。しかしまさか候補者がダンプカーで回ってあるることもあるまいと思ってもっと突こんで聞いたら「それは昨夜の夢でした」全くとんでもないホラフキがいたものだ。

▼十月八日、来春、高校入試を控えた中学校の後輩たちが模擬の試験とためがワンサ、ワンサと押しかけた。早速本校のある豆タンクの庄先駆風をふかして「女子中学生をつかまえて「本校の床に上写真同好会、J・R・C部便友会などの展示も行なう。催しものでは、文化人を招き講演会を行なうほか、演劇部員による劇、市内五高による音楽部の出演とグラス対抗を行なう音楽会、校内弁論大会、ステレオコンサートなど、各種盛大に行なうその他、喫茶部と食堂を設ける。

▼来春三月の大学入試まであと七ケ月あまり。今年もまた下ケ目の関ケ原合戦とも言うべき受験休暇へ入るわけである。受験者本人はもとより父兄、先生方及びその関係者も、この合戦を無事に経て栄光の入試合格へ到達できるよう望んで止まぬところである▼この最大のヤマ場を迎えて学校では一人でも多くの合格者をというスローガンを掲げて大学入試対策に余念がない。「有名大学「一流大学」の入学ばかりにこだわらず、自分の能力に応じた無理のない学校を選択し、確実に合格者を出そうということに重点をおいているのだそうだ。

▼本校はこの辺の地区では一応名門校として通っ。又確かに毎年こっ少数ではあるが有名大学合格者が出ている。ところが全国には、いや県下にさえ本校の成績よりはるかに上廻る高校があるのだ▼今回こそ他の学校に劣らぬよう多くの合格者が出て欲しいものである今年は学校の方で特別に進学の補習授業を設けず、生徒の自主的な勉学心を待つという方針であったところが何日もたないうち各教科毎に各グループが自前にでき上がって先生に御指導をお願いし、殆んど毎日といっていいほど熱意のこもった授業が行われているという状態である。自分の弱点を知ってのこの理想的な勉強法がさうやすやす好結果と結びつきはしまいが、来年に明るい話題となって本校に輝かしい一ページをつけ加えるよう期待しよう。

漫点

▼来春三月の大学入試まであと七ケ月あまり。今年もまた下ケ目の関ケ原合戦とも言うべき受験休暇へ入るわけである。受験者本人はもとより父兄、先生方及びその関係者も、この合戦を無事に経て栄光の入試合格へ到達できるよう望んで止まぬところである▼この最大のヤマ場を迎えて学校では一人でも多くの合格者をというスローガンを掲げて大学入試対策に余念がない。「有名大学「一流大学」の入学ばかりにこだわらず、自分の能力に応じた無理のない学校を選択し、確実に合格者を出そうということに重点をおいているのだそうだ。

▼本校はこの辺の地区では一応名門校として通っ。又確かに毎年こっ少数ではあるが有名大学合格者が出ている。ところが全国には、いや県下にさえ本校の成績よりはるかに上廻る高校があるのだ▼今回こそ他の学校に劣らぬよう多くの合格者が出て欲しいものである今年は学校の方で特別に進学の補習授業を設けず、生徒の自主的な勉学心を待つという方針であったところが何日もたないうち各教科毎に各グループが自前にでき上がって先生に御指導をお願いし、殆んど毎日といっていいほど熱意のこもった授業が行われているというの状態である。自分の弱点を知ってのこの理想的な勉強法がさうやすやす好結果と結びつきはしまいが、来年に明るい話題となって本校に輝かしい一ページをつけ加えるよう期待しよう。

（眠を仮がふえるかもしれない）

「アダも高校生ギャ、チチエケニヤ」

▼本校の教室に真白なカーテン設けられた。年前中「陽の当たる坂道」ならぬ「陽の当たる教室」であった各教室もこれからは「適度なはなし」となるだろう。

った感想は？」彼女しばらくして

バン
洋菓子
エーワン・ベーカリー
電話　一〇〇一番　一五六
T（工場）510

DPE
カメラ
大町
T 132
佐藤写真舘
カメラ部　光雅堂

夏休みの成果を
良い備品で
あげましょう
キムラヤ
T 一三六二

就職・受験写真は
早目にお越し下さい
新銀座
写真　唐津
T 339・2155

opt　pen
カモヤ
能代畠町　T 464

D・P・E
カメラ
8ミリ
三羊堂
T 一三九四